

令和6年度 人権に関するポスターコンクール審査講評(全体)

本年度は、県内各地の小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校 246 校の児童生徒並びに一般から計 2,143 点の応募があり、審査員長含め 4 名の審査員で審査を行いました。

小学校低学年の部は、人権の花「ひまわり」と、家族や友達が仲良く過ごしている様子を描くことで、自分が大切だと感じている人とのつながりを表現した作品が多く見られました。クレヨンによる線描や、水彩絵の具等を使って好きな色で着色するなど、のびのびと楽しみながら表現に取り組んだ様子が伝わってきました。

小学校中学年の部は、自分や友達が仲良く過ごす場面と「ひまわり」等とを組み合わせ、人と人との温かなふれ合いを大切にしたい社会の実現を呼びかけた作品が多く見られました。伝えたいことに合わせて、文字や描く絵の内容、着色方法などを工夫して、隅々まで粘り強く表現した様子が伝わってきました。

小学校高学年の部は、主題についてよく考えながら、一人一人の個性や他者への思いやりを大切にすることを呼びかけた作品が多くみられました。伝えたいことに応じて絵や文字、画面構成に工夫が凝らされ、丁寧に取り組んだ様子が伝わってきました。

中学生の部は、どの作品も表現の見通しをもって、粘り強く取り組んだ作品が多く、生徒のポスターで伝えたいという姿勢が伝わってきました。また、現代社会が抱える課題に対して、人権尊重の多様な視点から主題を生み出し、見る側に訴える図案や文字、レイアウト、配色等に工夫が凝らされていました。また、レタリングやポスターカラーによる着色も丁寧に表現されており、ポスターとしての仕上がりの美しい作品が多く見られました。

高校生の部は、社会で問題になっていることをもとに、多様な視点から主題を生み出し、洗練された図案に色数を絞り込み丁寧に着色された作品が見られました。また、多様な表現の方法を試みた作品が見られ、完成度がとても高かったです。

特別支援学校の部では、人権について考え、自分の思いや願いを素直にのびのびと線描したものや鮮やかな色で楽しく着色した作品が多く見られました。主題を表するために描かれた、笑顔の家族や友達、花、虹などが、見る側を優しい気持ちにさせてくれました。また、応募作品からは、一生懸命表現する児童生徒のみなさんの姿が感じられました。

全体的にどの作品も、身近なところや社会全体でおきている出来事から主題を生み出し、「人権を大切にしよう。」という思いを込めて表現されており、児童生徒のみなさんが人権に関するポスターを表現する中で、人権について深く考えていることがうかがえました。